

八王子市における高齢者施設クラスター支援

～新型コロナウイルス感染症対応をふりかえり、今後の感染症対策を考える～

八王子市保健所 木村香織、山口景子、篠山ひとみ、小坂太朗、片山珠愛
越前英子、脇坂晶子、荒川泰雄 鷹箸右子

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」と略）は第6波以降オミクロン株が主流となり、施設における陽性者発生報告が相次いだ。

保健所による感染拡大予防指導により、これら施設における感染対策への意識が一定程度向上した一方、クラスター発生の回避や早期終息のためには、施設内の確実な情報共有や指揮命令系統の確立の有無がクラスターの拡大や終息に大きく影響することを認識した。

2. 目的

今後、新たな感染症が発生した際、感染症り患により重症化しやすい高齢者が数多く生活する高齢者入所・入居施設自らが感染症対応能力を向上させることにより、感染拡大防止対応が可能となることを目指す。

3. 対象と方法

1) 対象

本市には重症化及び感染拡大リスクが高い高齢者を対象とする入所・入居施設（グループホーム、サービス付き高齢者住宅、介護老人保健施設、小規模多機能施設、短期入所施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム。以下、「高齢者施設」と略）が162施設あるが、COVID-19によってクラスターが発生した高齢者施設（実数115、延べ数207）を対象とした。

2) 方法

第7波と第8波でクラスターが発生した高齢者施設において、看護師配置の有無、定期的なミーティングの有無、感染予防物資充足の有無について、陽性者数、複数フロアへの感染拡大、7日間あたりの陽性者数、陽性者率を後方視的に検討した。

表1 新型コロナウイルス感染症高齢者入所施設におけるクラスター発生状況（令和2年から令和5年5月7日）

	期間	発生施設総数	クラスター対応施設(延)	クラスター対応施設発生者数			施設当たりの入所者陽性者数 中央値(最小値-最大値)
				入所者	職員	計	
第1波	令和2年4月～6月	0	0	0	0	0	0
第2波	令和2年7月～10月	1	1	1	5	6	1
第3波	令和2年11月～令和3年3月	9	6	88	33	121	15(1-28)
第4波	令和3年4月～6月	9	5	43	14	57	9(5-13)
第5波	令和3年7月～12月	9	4	33	6	39	4.5(2-22)
第6波	令和4年1月～5月	107	39	801	326	1,127	12(1-78)
第7波	令和4年6月～9月	124	65	613	394	1,007	5(0-55)
第8波	令和4年10月～令和5年5月7日	164	87	1,087	527	1,614	8(0-58)
全経過		423	207	2,666	1,305	3,971	8(0-78)

表2 初発患者発生から対応終了までの状況

	初発患者診断から保健所探知までの期間(日)			保健所探知から対応終了までに要した期間(日)			初発患者の属性(施設数)		
	中央値	最小値	最大値	中央値	最小値	最大値	入所者	職員	判別不可
全期間	2	0	26	22	6	68	54	79	19
第7波	3	0	26	22	7	62	24	37	4
第8波	2	0	10	22	6	68	30	42	15

【用語の定義】

- ・クラスター：同一感染源から施設内で 3 名以上の陽性者が発生した場合
- ・各波：「新型コロナウイルス感染症八王子市の記録」をもとに本市独自に決定
- ・対象期間：全期間(第 7 波と第 8 波の期間)
第 7 波(令和 4 年 6~9 月)
第 8 波(令和 4 年 10~令和 5 年 5 月 7 日)

4. 結果

1) クラスター発生状況(表 1、表 2)

陽性者が報告された延べ 423 件中、207 件でクラスターが発生した。

また、初発診断が職員であった施設の割合は、第 7 波では 56.9%、第 8 波では 48.3%と職員からのクラスター発生が約 5 割であった。

2) 保健所探知から対応終了に要した期間(表 2)

保健所が陽性者探知後対応終了までの日数は最短 6 日最長 68 日、中央値 22 日だった。

3) 居室の形態

クラスターが発生した施設の入居形態は全室個室の施設からの発生が多かった。

4) 看護師配置の有無

看護師配置が「無い」施設より、「有り」の施設は陽性者数が多かったものの、クラスター 7 日間あたり陽性者数では両者の差が縮まった。また、複数フロアへの感染拡大は看護師配置の有無で明らかな差はみられなかった。一方陽性率は、看護師「有り」の施設の方が低かった。

5) 定期的なミーティング開催の有無

定期的なミーティング「有り」の施設では、陽性者数は多かったものの、複数フロアへ感染拡大した割合が小さく、陽性率がミーティング「無し」の施設より低かった。

6) 感染予防物資充足の有無

調査対象とした高齢者施設の過半数の施設で感染予防物資は充足していた。

陽性者数と感染予防物資の充足の関係では、より充足している施設は陽性者数が多かった。

一方、充足していない施設に比べ、充足している施設は複数フロアへの拡大の割合は小さく、陽性者率も低かった。

5. 考察

1) 看護師配置と定期的なミーティングの開催

看護師配置「有り」の施設は施設規模が大きいため感染者数は多かったが、陽性率は明らかに低く、感染拡大防止への看護師の役割の重要性が改めて確認できた。今後、看護師配置の「無い」施設は、感染対策を担う担当者を予め設置しておくことが必要だと考えられた。

定期的なミーティング「無し」の施設は「有り」の施設より感染拡大傾向が大きいことが分かり、ミーティングによる情報共有が感染拡大防止に効果があると考えられた。

平時から他職種が連携し、情報共有を行うことで施設全体で感染対策を講じる機会をもつことが感染予防に効果的だと考えられた。

2) 施設配置と感染拡大について

個室や多床室と混合施設の方が、多床室のみの施設よりクラスター発生件数に占める割合が高かった。これは、訪室する度に手洗いや PPE 着脱、ゾーニング等、感染拡大防止に必要な業務が多くなることによると考えられた。

3) 感染予防物資(資器材)

感染予防物資が充足している施設は、陽性者数が多いものの、これは感染者数の増加により資器材の需要が大きくなるためと考えられた。

ひとたび施設でクラスターが発生すると終息するまで一ヶ月以上かかることも稀ではないため、感染予防のため必要な物資は、一ヶ月をめぐりに各施設で平常時より備えておくことが必要だと考えられた。

6. おわりに

感染症対策は平時からの対応が重要であることは論をまたない。普及啓発はもとより、頻回な施設支援や連携等、互いに顔が見える関係の醸成が今後も重要である。

「COVID-19」への対応をもとに得られた連携を今後も維持することにより、市内の感染症対策のさらなる向上に貢献してゆきたい。

参考文献：新型コロナウイルス感染症八王子市の記録
令和 5 年(2023 年) 7 月 八王子市